

宇宙新聞

宇宙時代の地球人を育てる



<ひまわり1日記者 活動スケジュール>

日付	時間	移動手段	
十月六日	21:45	ホテル集合	
	21:45 ~ 22:15	めざましTV、中山様より取材。明日の打合せ	先に取材は受けていましたが、ホテルでの取材の方が緊張しました。
	23:00 ~	就寝	疲れていたのかすぐに寝てしまいました。
十月七日	6:00 ~ 6:30	起床 準備	朝起きることが少し心配でしたが目覚ましと共に起きることができました。
	6:30 ~ 7:00	食事	ホテルの方が皆が同じブルースーツを着ていたのを見て不思議に思っていたそうです。
	7:00 ~ 7:15	タクシー移動	運転手さんに鹿児島市内からもロケット打ち上げが見えることを教えて頂きました。
	7:15 ~ 7:25	待合	南埠頭で、YACの先輩、三菱電機の大久保様にお声をかけて頂きました。「今日は楽しんでね。」と言われました。
	7:30 鹿児島南埠頭発 ~ 9:05 西之表港着	トッピー移動	大隅半島最南端の佐多岬を過ぎたら波が高く、トッピーはかなり揺れました。
	9:10 ~ 9:30	タクシー移動	鉄砲館へ
	9:30 ~ 11:00	鉄砲館	町がきれいに掃除されていました。
	9:30 ~ 11:00	鉄砲館	鉄砲館見学の後、西之表市広報の上妻様より取材の方法やカメラの撮を教えてくださいました。
	11:00 ~ 11:10	徒歩移動	町がきれいに掃除されていました。
	11:10 ~ 12:00	食事 味処井本さん	みんなで親子丼と大学芋とアイスクリームを食べました。おいしかったです。
	12:00 ~ 12:10	車移動	井本さんに港まで送って頂きました。みんなで車にぎゅうぎゅう詰めでした。
	12:15 西之表港発 ~ 13:25 長谷公園着	バス移動	ガイドさんが種子島の事をたくさん説明して下さいました。途中、御龍・雌立龍の岩のところで休憩しました。
	13:30 ~ 14:10	インタビュー	2名の方にインタビューしました。
	14:10 ~ 14:30	14:16 H-II A25号機 発射	発射の時の爆音と震動がお腹と体にきてびっくりしました。ロケットの写真と分離の写真と画像が取れました。
	14:40 長谷公園 ~ 15:50 西之表港	バス移動	帰日もガイドさんが種子島の説明をして下さいました。
	16:00 ~ 16:20	お土産購入	安納いもと黒砂糖をお土産で買うことができました。
	16:45 西之表港 ~ 18:20 鹿児島南埠頭着	トッピー移動	鹿児島湾に入ると左手に薩摩半島最南端の開聞岳が迎えてくれました。夕日がとてもきれいでした。
	18:25	川添 解散	
	18:30 鹿児島南埠頭 ~ 17:20 鹿児島空港		

H-II A25号機

 平成二六年一〇月六日・七日・種子島宇宙センターから打ち上げ見学
 記者 川添 優摩

「ひまわり8号」打ち上げ取材

ぼくの疑問集

Q：ひまわり 8 号で天気予報はどう変わりますか？

A：ひまわり 7 号の画像は白黒ですが、8 号はカラーになる為、黄砂や火山の噴煙の監視もできるようになります。

観測の画像の種類が 5 種類から 16 種類に増える為、雲の種類判別や積雪との区別が解り易くなります。又、解像度は 7 号の 2 倍になるそうです。

観測時間は 30 分から 10 分に短縮され、日本付近に限ればでは 2 分半で観測が可能となる為、台風の規模や進路の予測精度が上がり、極地的な大雨（ゲリラ豪雨）や、竜巻等の予測精度が上がるそうです。

Q：気象衛星はなぜ「ひまわり」なのか？

A：赤道 36,000km 上空からいつも地球を見つめていることと、気象の衛星（天気に関係する衛星）であることから、太陽をイメージさせる花の名前が適当とされ、太陽をイメージさせる花として「ひまわり」が最も相応しいとしてきめたそうです。

Q：なぜ、静止衛星は静止しているのか？

A：地球の自転と同じ周期（約 24 時間）で地球の周りを回っています（公転）。地球上から見ると、いつも同じところに静止しているように見えるため、静止衛星と呼んでいます。赤道上空約 36,000km のこの位置を「静止軌道（せいしきどう）」と呼んでいます。 気象衛星の他の静止衛星には、放送衛星や通信衛星があります。

感想 1

ひまわり 8 号をのせた H-IIA 25 号機が発射される予定の前々日の 5 日は、種子島は台風 18 号の影響で大荒れの天気でした。

西之表市では午後 2 時 1 分に最大瞬間風速 43.4m が観測され、1 時間に 53 mm と非常に強い雨、1 日の雨量は 330 mm を越え 10 月の観測史上最多となったそうです。

台風が通りすぎた 6 日（発射前日）は、朝から、種子島各地で「明日はひまわり 8 号を成功させよう」と、一生懸命に台風の後片づけをされたそうです。

僕たちが種子島に入った 7 日の朝にはすっかりきれいになり、島外から来られた方の歓迎の準備が出来ていました。

僕は被害の状況を聞いていたので、種子島の皆さんのロケットを思う気持ちと、台風被害が多い種子島の皆さんにとって、新しい気象衛星「ひまわり 8 号」への期待がとても大きなものだと感じる事が出来ました。

世界で一番美しい発射場といわれる種子島宇宙センターで、最高の天気と最高の仲間で見守る中、気象衛星ひまわり 8 号は地球から飛び出し、宇宙からみんなを守ってくれるといいなと思いました。

感想 2

僕は 1 年生のころから、宇宙に興味を持ちました。1 年生の夏休みの YAC 活動で鹿児島地方気象台に行ったときに、桜島を前に観測していた所を見た時すごいと思いました。

それから 5 年間毎年、毎日天気を観測していました。いつも新聞の天気を見ていたら予報も時々違っていました。最新の技術を搭載されたひまわり 8 号が打ち上がって、運用されれば、今まで白黒だった画像がカラーに変わって、いままでわからなかった火山灰や黄砂の行方や雲の変化が素早くわかるようになるそうです。

自分もたくさん勉強して、ひまわり 8 号のような人工衛星を作って打ち上げたいと思いました。

お礼

打ち上げは予想外な程の音と振動を体験できてとても良い体験になりました。

1 日記者に選んで下さって有難うございました。これからも頑張ります。